

Course number	U-LAS02 20022 LJ37				
Course title (and course title in English)	言語機能論 Language and its Functions		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Human and Environmental Studies Professor, MORITA TAKAHIRO	
Group	Humanities and Social Sciences		Field(Classification)	Arts, Literature and Linguistics(Issues)	
Language of instruction	Japanese		Old group	Group A	Number of credits 2
Number of weekly time blocks	1	Class style	Lecture (Face-to-face course)		Year/semesters 2025・First semester
Days and periods	Mon.4	Target year	2nd year students or above		Eligible students For all majors

(Students of Faculty of Integrated Human Studies, Faculty of Letters cannot take this course as liberal arts and general education course. Please register the course with your department.)

[Overview and purpose of the course]

この授業のテーマは言語の意味に関する理解を深めることである。言語はさまざまな領域で研究対象となっているが、言語とは何か、意味とは何なのかという根源的な側面が十分に理解できていない。この授業では、19～20世紀のフランス・スイスで発展してきた現代言語学の成立時における言語観から始め、現在の認知言語学に至るまでにどのような変遷があったのか、進化の観点を加えながら論じていく。言語の公的側面と私的側面、何が意味で何が意味でないのか、言語と言語を比較することは本当に可能なのか、といった問題を扱う。

[Course objectives]

- ・「個人的なものを公共のものにする」という言語の(ある種、矛盾した)機能を理解することができる。
- ・「ことばには意味がある」「ことばは意味をもつ」というありふれた文の奇妙さが分かり、もっと動的なものとして言語を考えられるようになる。

[Course schedule and contents)]

社会的産物としての言語、客観的観察対象としての言語という見方がどのようなものなのか概説するとともに、現在の認知言語学や類型論的研究を支えている意味観を検討する。単なる概説の講義というわけではなく、言語をめぐる自らの経験に則して考えることが求められる。また、言語学の理論的側面が最終的に問題になるが、言語学の基本は実例に支えられるため、その都度、実際に分析を行ってみることも必要となる。

講義計画の概略は以下の通りだが、受講生の関心や議論の方向によって変更を加えることもある。

1. 言語と、言語のように見えてそうではないもの
2. ヒトにできることと動物にもできること
3. 社会的産物として：法律と言語は同じか、違うか
4. ソシュールの「記号」が抱える問題
5. 砂浜、星雲状のもの、マグマのようなものの存在
6. 言語と言語を比べることの可能性
7. 客観的観察対象として：意味論不在の言語学なのか
8. 「意味は指示対象」という考え方1
9. 「意味は指示対象」という考え方2
10. 「意味は概念化そのもの」という考え方1

Continue to 言語機能論(2)

言語機能論(2)

11. 「意味は概念化そのもの」という考え方2
12. 改めて、言語と言語を比べることの可能性
13. 先に意味があったと考えることの利点と欠点
14. 「意味が伝わらない」という現象が発生する理由

[Course requirements]

言語科学IまたはIIを履修済みであることが望ましいが、前提知識は要求しない。

[Evaluation methods and policy]

平常点50%，期末レポート50%。平常点は授業中に書いてもらうエッセイや持ち帰りの課題（5回程度を予定）および授業への貢献度で評価する。成績評価は本学評価基準に準ずる。

[Textbooks]

定めない。授業時にレジュメを配布する。

[References, etc.]

（References, etc.）

Introduced during class

[Study outside of class (preparation and review)]

期末レポートでは、授業内で扱った具体的な分析を題材に、(1) 各自で分析を発展させる、(2) 類例を分析する、(3) 文献を批判的に読んで論評する、といったことをしてもらう予定である。紹介・配布した参考文献（日本語だけでなく、英語(必須)、フランス語(選択)の文献も含む）は必ず読む必要があり、毎回の授業での議論やレポートに役立ててもらいたい。

[Other information (office hours, etc.)]

- ・講義は基本的に配布資料と板書のみで行う、非常に地味な授業である。履修生の積極的な発言で活性化することを歓迎する。
- ・オフィスアワー、連絡先等についてはKULASISにて確認のこと。メールでの質問は随時受けつける。オフィスアワー以外の時間であってもアポイントメントの相談は可能。

[Essential courses]